



(金沢)

調査は、北陸新幹線建設工事に伴うもので、一九九〇年〇 m^2 を調査し、道路・井戸・土坑などを確認した。木簡は、一八世紀の町屋域内にある一段掘りの土坑SKK八四から出土した。SKK八四には桶がすえられていた可能性がある。

- 1 所在地 石川県金沢市三社町
- 2 調査期間 一九九七年（平9）四月～九月
- 3 発掘機関 財石川県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 柿田祐司・浅香直子
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 近世・近代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 三社町遺跡は、金沢市域の西部、JR金沢駅の南約八〇〇mに位置し、近世都市金沢城下町の縁辺部にある。

石川・三社町遺跡

さんじやまち

8 木簡の釈文・内容

(1) 「浜納豆」 正福寺

径135×厚5 061

平面円形の曲物容器の蓋で、中心からややはざれた位置に樹皮の摘みが付く。「浜納豆」が内容物、「正福寺」が贈り主であり、進物用の容器とみられる。寺院で製造した浜納豆をこうした曲物容器に入れ、檀家などに配つたのであろう。

浜納豆は大豆に小麦粉、塩などを混ぜた塙辛納豆。正福寺は淨土真宗東派の寺院である。

9 関係文献

（財石川県埋蔵文化財センター『三社町遺跡』（1990年））

（藤田邦雄）

